



第31回日本整形外科超音波医学会

会長 **後藤 英之**

至学館大学 健康科学部 健康スポーツ科学科 教授

名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科 臨床教授

第31回日本整形外科超音波医学会を2019年7月6日（土）、7日（日）の2日間、名古屋駅前のウインクあいち（愛知県産業労働センター）にて開催させていただきます。平成元年に始まった伝統ある本学術集会を名古屋市立大学大学院整形外科学教室がお世話させていただくこととなり、誠に光栄に存じます。教室を代表し、深く感謝申し上げます。

整形外科で多く扱う運動器疾患の多くは筋肉、靭帯、腱、などの軟部組織の損傷であることが多く、これら損傷を診断しその病態を正確に評価することは単純X線撮影だけでは困難です。超音波断層検査は機器の発達に伴う画像の鮮明化、診断精度の向上や、機器の軽量コンパクト化によって外来診察室を越えてスポーツ現場での使用も可能なツールとして今や運動器疾患の診療に必須の診断機器となっています。さらに動態評価、血流評価や組織弾性の測定、詳細な組織の観察やエコーガイド下インターベンション、リハビリテーションやコンディショニングへの応用など、今までの整形外科診断学、治療法の常識を覆す知見も得られてきています。この学会に参加される皆さまはこのような運動器超音波の可能性を常に追求し、挑戦し、さらに新しい英知を探求しようとされています。そこで今回、学会のテーマを「音考知新-新しい運動器超音波の展開を考える-」とさせていただきました。

運動器超音波の分野はまだ発展途上にあり、最新の解剖学的見地、運動学との癒合によって益々応用が期待されています。東海地方は、もともと運動器超音波が盛んで、当教室におきましても、これまでも恩師である杉本勝正先生や和田郁雄先生をはじめとして、この地で本学会を開催させて頂いております。このような歴史的な背景を踏まえて、超音波学を再考し、未来に向けて新しい運動器超音波のあり方を各方面から検証し、探求して参りたいと思います。

本学会では招待講演（海外）、教育研修講演、シンポジウム、ランチョンセミナーなどを企画する予定です。さらに、スポーツの現場や臨床で活躍できる検査士を育成する目的で、各種のワークショップを企画する予定です。

整形外科医師だけでなく運動器を扱う様々な分野からのご意見、ご提案、情報提供を頂くことで、運動器の超音波診療を究める機会になればと祈念しております。浅学非才の身ではございますが整形外科超音波学の発展のため全力を尽くしたいと存じます。諸先生のご支援とご教示を頂きますことを心よりお願い申し上げます。

会場になります「ウインクあいち」はJR名古屋駅から歩いて5分と交通至便な所で、宿泊、飲食施設等が近くに多くあります。この学会の嚆矢となった平成元の年から、新しい幕開けとなる年に名古屋の地で多くの先生とお会いできることを楽しみにお待ちしております。